

令和2年12月10日

有田市議会

議長 生駒 三雄 様

文教厚生委員会

委員長 上山 寿示

文教厚生委員会 市内視察報告書

視察日時 令和2年11月12日(木) 10:00~15:30

視 察 先 1. 「有田市社会福祉協議会」

及び内容 ① 運営状況、実施事業について  
② コロナ禍における現状について  
③ その他

2. 「須谷会館」「北原会館」について

① 運営状況、実施事業等について  
② デイサービスセンターの視察

3. 市立病院 看護師との意見交換

出席委員 上山 寿示 委員長、上野山 善久 副委員長

浜口 元司 委員、福永 広次 委員、堀川 明 委員

中谷 桂三 委員、小西 敬民 委員

文教厚生委員会から、11月12日に開催しました市内行政視察について報告いたします。

視察先は、有田市社会福祉協議会、須谷及び北原の隣保館とその各デイサービスセンター、及び有田市立病院です。

まず、【有田市社会福祉協議会】では、

作り込まれたパワーポイントによる資料に基づいて、運営状況、実施事業について説明を受けました。

社協の活動は、幅広く地域の活動にも深く入り込んでおり、その時々に対応した新規の事業にも取り組まれており、その成果も十分に理解できました。

コロナ禍においては、生活福祉資金の相談、申請件数が大幅に増え、その対応で一時期大変な時もありました。

県社協によれば、この制度が始まった昭和30年からの65年間に貸し付けた総額の約6割の金額を、令和2年3月からの半年間で貸し付けたとのことでした。

一方介護サービスについては、介護保険導入時には多くを担っていましたが、民間の事業所が増えており、サービスや体制の見直しを図りつつ努力されていました。今後も介護サービスの充実を図っていただきたいと思います。

【須谷会館】【北原会館】では

新型コロナウイルス感染症の関係で、休館していた時期もありましたが、現状は、例年並みの利用者数まで回復し、地域の皆さんの憩いの場として利用されているとのことでした。

今後、感染者が増えてきた場合、休館措置等判断を速やかに、また的確に行うことが重要です。

デイサービスセンターでは、スタッフが1名で医療機器の操作等に対応しているとのこと

であるので、担当者の業務負担を分散させるためにも、館長や職員の方の応援もお願いしたいと思います。

【有田市立病院】では、

新型コロナウイルス感染症において、最前線に対応されている 2 名の看護師と第 1 委員会室で意見交換を行いました。

今年に入ってから感染が拡大している新型コロナウイルスにより、医療現場の環境が大きく変化することになり、業務の負担増はもちろんのこと、医療スタッフの皆さんは常に感染するのではないかという恐怖と、家族や自身に対して「偏見を持たれるのではないか。」という不安が常につきまとっているとのことでありました。

そんな中、2月頃から開設された有熟者外来では、医療用の防護服等が不足し、100円ショップの雨合羽を代用品として使用したり、診察場所（屋外テント）についても当初は環境が整わずに、冬は手がかじかむほど寒く、夏は暑く汗がしたたり落ちる、時には強風であおられたりと悪環境の中で、気が休まるときがなく、緊張の連続。このような状態で医療スタッフの方々は最前線で頑張っている現在の医療体制を支えておられます。

現状主に以下のことで困りごとや要望があるとのことです。

- 現在は当初の消防署からお借りしたテントから、最新型の冷暖房完備のテントが設置され、少しは環境が良くなってきていますが、市立病院の建物の構造上、感染症病棟と本館の間に屋根がなく、雨天の場合、移動時に濡れてしまう。
- 移動時は感染防止のため、本館のエレベータは使用できず、防護服を着た看護師が外階段を使って病室まで移動しているので、外部から見えてしまう。
- 感染症病床が 45 床に増えたことに対して、症状が無い方、もしくは疑いだけの患者さんで健康な方であれば、現在のスタッフで対応可能ですが、少しでも手のかかる患者さんが

入院されると、たちまち人手不足になると感じているので、日頃からスタッフ間・上司とのコミュニケーションを図っており、言いたいことや要望は相談できている環境は整っているとのことですが、今後新型コロナウイルスの感染状況により、患者の受け入れが多くなってきた場合、管理者の方々は現場の状況を注視し、速やかな対応（医療スタッフの増員等）ができるよう体制を整えてほしい等。

今回、テレビなどの報道では、到底知ることのできない生の現場の声を聞くことができ、現場のご苦勞を知ることができました。我々としても協力できることは、進んで協力したいと思います。

以上文教厚生委員会からの報告といたします。